

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	愛知工科大学
設置者名	学校法人電波学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
工学部	機械システム工学科	夜・通信	17	—	13	30	13	
	電子ロボット工学科	夜・通信	15		12	27	13	
	情報メディア学科	夜・通信	16		18	34	13	
	機械システム工学科1級自動車整備士養成課程	夜・通信	—	—	23	23	13	
(備考) 2023年度生教育課程による。 機械システム工学科1級自動車整備士養成課程は、3年次編入による履修								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページ—キャンパスライフ—学生便覧・講義要項—実務経験のある教員による授業科目の一覧表 (https://www.aut.ac.jp/campuslife/handbook/)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	愛知工科大学
設置者名	学校法人電波学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人電波学園公式 Web サイト「学園の概要」「役員名簿・規程等」 (https://www.denpa.jp/about/index.html)
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	R1. 10. 1～ R5. 09. 30	労務・法務担当
非常勤	司法書士	R1. 10. 1～ R5. 09. 30	法務担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	愛知工科大学
設置者名	学校法人電波学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>各学科は、学部のカリキュラム・ポリシーをうけて、学科の学びと育てる人材像に向けたカリキュラム・ポリシーを設定し、学生の成長モデルに基づき、各学年に対して教育課程編成方針をまとめ、講義概要に示している。</p> <p>教育課程編成の検討と具体化にあたり、基本方針を教育改革推進会議での審議において確認し、進めている。教育課程編成においては、共通教育課程は総合教育センターが、専門教育課程は各学科がそれぞれ担っている。具体的な教育課程編成については、教務委員会で審議・確認し、実行に移している。</p> <p>シラバスについては、次の手順で、作成及びチェックを行っている。</p> <p>①学務課より科目担当教員に作成を依頼する。</p> <p>②科目担当教員は、シラバスとチェックシートを印刷し、他の教員にチェックを依頼する。</p> <p>③シラバスのチェック者は、チェック結果をチェックシートに記載し、シラバスとチェックシートを科目担当教員に返却する。</p> <p>④修正事項があった場合、科目担当教員は修正し上記②を行う。修正事項がなければ、すべての修正履歴を綴じてシラバスとチェックシートを学科の教務委員に提出する。</p> <p>⑤学科の教務委員は、学科全体のシラバスをチェックし、不備があれば修正を指示する。</p> <p>シラバスの公表については、大学のホームページおよび大学の web ポータルサイトに公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>大学ホームページーキャンパスライフー学生便覧・講義要項ー講義概要</p> <p>(https://www.aut.ac.jp/campuslife/handbook/)</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

単位認定、進級判定、卒業認定、修了認定は規定されている各基準条件に基づき運用されている。具体的には、以下のとおりである。

単位認定は、各科目教員がシラバスで示した成績判定基準に基づき「意欲」「人間性」「能力」を評価し、「能力」に配分した割合の6割以上を満たし、総合で60点以上の者を単位認定している。各科目の担当教員は科目成績書提出にあたり、受講生それぞれの3要件の評価点を記載したものを学務課に提出している。

進級判定は、単位修得状況をまとめ、進級に必要な単位条件をもとに条件を満たしているかの一覧表を学務課が作成し、教授会で進級判定を行っている。判定会議において、担任は進級条件を満たさない学生の状況を必要に応じて説明している。

講義概要において、各科目の学修及び毎回の学びでの到達目標、学習方法、成績評価方法などを明示しており、科目学修で到達目標を意識して学修修得することを目指す。具体的には、各科目担当者は科目ごとに3要件貢献度配分を設定し、各要件の評価項目と比率（例えば、3要件の貢献割合：意欲40%、人間性30%、能力30%。各要件の評価項目比率：意欲<ワークシート取り組み10%、授業での問題への取り組み姿勢30%>、人間性<協同学習の関わり30%>、能力<小テスト10%、定期試験20%>）を講義概要に示している。

成績評価は、3要件の修得度をそれぞれ評価し、能力配分の60%以上を満たし、総合的评价にて60点以上の場合に単位を与える。これは、単に定期試験のみで60点を取得しても単位は得られない事を示している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価は、平成27(2015)年度からGPAを採用している。GPAは、学生便覧・講義概要に示している。GPAは以下の評価式を用いている。

$$GPA = (\text{履修登録した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目のGP}) \text{の総和} / \text{履修登録した授業科目の単位数の合計}$$

評語に対するGP

可否区分	素点	評語	評価点 (GP)
合格	100点~90点	秀	4
	89点~80点	優	3
	79点~70点	良	2
	69点~60点	可	1
不合格	59点以下	不可	0

客観的な指標の算出方法の公表方法

大学ホームページーキャンパスライフー学生便覧・講義要項ーGPAについて
(<https://www.aut.ac.jp/campuslife/handbook>)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

愛知工科大学の卒業の認定に関する方針は以下のとおりである。

工学部の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

本学の教育課程を修了し、教育目標「自立と夢の実現」達成の基本的要件である「意欲」と「人間性」と「能力」をバランスよく向上させ、総合力と実践力、あわせて設計力と製作力を身に付けた者に対して学位授与を行います。また、各学科の卒業の認定に関する方針は以下のとおりである。

■機械システム工学科

機械システム工学科の教育課程を修了し、機械技術者として必要となる多くの人々と協力や協調して作業ができ、機械の企画・設計・開発・製造などの基礎技術や考え方を修得し、「意欲」と「人間性」と「能力」のバランスある向上を果たし、実践力・設計力および製作力を身につけた者に対して学位授与を行います。またI o T・A Iエンジニアリングコースに特別選抜され指定された科目を修得した者に対してI o T・A Iエンジニアリングコース修了証を授与します。

■機械システム工学科 一級自動車整備士養成課程

機械システム工学科の一級整備士養成課程を修了し、自動車技術者として必要となる多くの人々と協力や協調して作業ができ、自動車の企画・設計・開発・製造などの基礎技術や考え方を修得し、「意欲」と「人間性」と「能力」のバランスある向上を果たし、実践力・整備技術力および環境保全、自動車法令を身につけた者に対して学位授与を行います。

■電子ロボット工学科

学科の教育課程履修単位を修得し、共通基礎科目による専門分野の基盤をなす基礎学力と専門教育科目による専門能力を身に付け、かつ「意欲」と「人間性」と「能力」の3要件をバランスよく向上し、電子自動制御分野やロボット工学分野で活躍ができる実践力・設計力および製作力を身につけた者に対して学位授与を行います。またI o T・A Iエンジニアリングコースに特別選抜され指定された科目を修得した者に対してI o T・A Iエンジニアリングコース修了証を授与します。

■情報メディア学科

共通教育科目、意欲喚起型科目、学科の教育課程を通して、「意欲」「人間性」「能力」をバランスよく向上させ、情報システム開発など情報工学の分野、あるいはコンピュータを用いたデジタルコンテンツ制作の分野で活躍できる実践力・設計力および製作力を身に付けた者に対して学位授与を行います。またI o T・A Iエンジニアリングコースに特別選抜され指定された科目を修得した者に対してI o T・A Iエンジニアリングコース修了証を授与します。

卒業認定は、卒業研究発表会の合否判定と全体の単位修得状況をもとに行われる。卒業研究の合否判定は、卒業論文作成内容および卒業研究取り組みの振り返りシートにて取り組み状況を確認したうえで、発表会での質疑応答を精査して学科の卒業研究担当教員にて行われる。卒業判定は在籍年数を満足し修得単位数を得ている学生の一覧表を学科別に学務課が作成し、教授会にて卒業認定判定を行っている。

卒業に必要な単位要件は、以下のとおりである。

	共通教育科目	専門教育科目	合計
機械システム工学科	49単位以上	75単位以上	124単位以上
電子ロボット工学科			
情報メディア学科			

卒業の認定に関する 方針の公表方法	大学ホームページ-大学案内-教育方針-卒業認定・学位 授与の方針（ディプロマ・ポリシー） (https://www.aut.ac.jp/outline/policy/)
----------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	愛知工科大学
設置者名	学校法人電波学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校法人電波学園公式 Web サイト https://www.denpa.jp
収支計算書又は損益計算書	学校法人電波学園公式 Web サイト https://www.denpa.jp
財産目録	学校法人電波学園公式 Web サイト https://www.denpa.jp
事業報告書	学校法人電波学園公式 Web サイト https://www.denpa.jp
監事による監査報告(書)	学校法人電波学園公式 Web サイト https://www.denpa.jp

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称: ビジョン実現のための中期計画 対象年度: 2021~2025年度)	
公表方法: 大学ホームページ-大学案内-情報公開-中期目標・中期計画 (https://www.aut.ac.jp/outline/disclosure/)	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学ホームページ-大学案内-情報公開-2021年度自己点検評価書 (https://www.aut.ac.jp/outline/disclosure/)

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 大学ホームページ-大学案内-情報公開-認証評価-平成28年度大学機関別認証評価 (https://www.aut.ac.jp/outline/disclosure/)
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ－大学案内－大学理念 https://www.aut.ac.jp/outline/spirit/ ）
（概要）本学は、次に掲げる教育目標及び研究理念をもって人材の養成に関する目的及び教育研究上の目的とする。 ■教育目標 自立と夢の実現：教育方針「心を磨き、技を極め、夢に挑む」に基づき、学生一人ひとりが夢を持ち、社会での自立とその夢の実現に必要な力を主体的に養い、自らの成長に自信を持って就職し、社会から喜ばれ歓迎される技術者となるよう教育する。 ■研究理念 一人ひとりの自由な発想によって学術の深奥を極めるとともに未来を創る夢に挑み、その成果を教育及び社会に還元し、工科大の使命を果たすことに努める。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ－大学案内－教育方針－卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） https://www.aut.ac.jp/outline/policy/ ）
（概要）本学の教育課程を修了し、教育目標「自立と夢の実現」達成の基本的要件である「意欲」と「人間性」と「能力」をバランスよく向上させ、総合力と実践力、あわせて設計力と製作力を身に付けた者に対して学位授与を行います。 ■機械システム工学科 機械システム工学科の教育課程を修了し、機械技術者として必要となる多くの人々と協力や協調して作業ができ、機械の企画・設計・開発・製造などの基礎技術や考え方を修得し、「意欲」と「人間性」と「能力」のバランスある向上を果たし、実践力・設計力および製作力を身につけた者に対して学位授与を行います。また IoT・AI エンジニアリングコースに特別選抜され指定された科目を修得した者に対して IoT・AI エンジニアリングコース修了証を授与します。 ■機械システム工学科 一級自動車整備士養成課程 機械システム工学科の一級整備士養成課程を修了し、自動車技術者として必要となる多くの人々と協力や協調して作業ができ、自動車の企画・設計・開発・製造などの基礎技術や考え方を修得し、「意欲」と「人間性」と「能力」のバランスある向上を果たし、実践力・整備技術力および環境保全、自動車法令を身につけた者に対して学位授与を行います。 ■電子ロボット工学科 学科の教育課程履修単位を修得し、共通基礎科目による専門分野の基盤をなす基礎学力と専門教育科目による専門能力を身に付け、かつ「意欲」と「人間性」と「能力」の 3 要件をバランスよく向上し、電子自動制御分野やロボット工学分野で活躍ができる実践力・設計力および製作力を身につけた者に対して学位授与を行います。また IoT・AI エンジニアリングコースに特別選抜され指定された科目を修得した者に対して IoT・AI エンジニアリングコース修了証を授与します。

■情報メディア学科

共通教育科目、意欲喚起型科目、学科の教育課程を通して、「意欲」「人間性」「能力」をバランスよく向上させ、情報システム開発など情報工学の分野、あるいはコンピュータを用いたデジタルコンテンツ制作の分野で活躍できる実践力・設計力および製作力を身に付けた者に対して学位授与を行います。また IoT・AI エンジニアリングコースに特別選抜され指定された科目を修得した者に対して IoT・AI エンジニアリングコース修了証を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ-大学案内-教育方針-教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

<https://www.aut.ac.jp/outline/policy/>

（概要）（概要）

「意欲」「人間性」「能力」をバランス良く向上させて「総合力」を培うとともに、この「総合力」を活かす「実践力」を身に付け、段階的に設定される実践的な課題・実習・実験を通してモノづくりに必須となる「設計力」と「製作力」を修得し、社会から喜ばれ歓迎される人材となるためのカリキュラムと授業内容・方法による学士課程教育を行います。

IoT・AI エンジニアリングコースでは、デジタル化技術、ネットワーク化技術及びデータ活用技術の修得に向け、各学科の教育に加え、学科横断のコースカリキュラムにより、IoT課題に対する実践的なプロジェクト推進と課題解決に向けた教育課程を編成し、行います。

■機械システム工学科

1. 意欲喚起型科目（AUT教育入門、修学・キャリア形成1等）に始まり、数理基礎、工学基礎、専門、応用各科目へと段階的・体系的に修得でき、現場対応型やプロジェクト実習型などの実験・実習を多く取り入れた実学実践教育によって「ものづくり技術の楽しさ」を体得できるようにしています。
2. 機械技術者に必要な科目の学習を通して、機械システム設計の考え方や理論を学び、機械の実験や機械の実習を体得して理解を深め、主体的で積極的に行動でき成長を実感できるようにしています。
3. お互いに教えあう協同学習やグループ学習を取り入れた授業によって、専門の学力を活かせる協調性や人間性を養い、「意欲」と「人間性」と「能力」の3要件がバランスよく向上し、実践力・設計力および製作力を身に付けた機械技術者の養成を目指しています。
4. 特別選抜コースの「IoT・AI エンジニアリングコース」では、上記1～3に加えて、IoTのコア技術であるデジタル化技術、ネットワーク化技術等を段階的・体系的に学習することで、IoT時代のモノづくりを担う機械設計技術者の養成を目指しています。

■機械システム工学科 一級自動車整備士養成課程

1. 問題解決型科目（総合整備実習等）に始まり、エンジン工学、自動車システム工学、専門、応用各科目へと段階的・体系的に修得でき、現場対応型やプロジェクト実習型などの実験・実習を多く取り入れた実学実践教育によって「整備技術の楽しさ」を体得できるようにしています。
2. 整備技術者に必要な科目の学習を通して、自動車整備の考え方や理論を学び、自動車性能実験や故障診断実習を体得して理解を深め、主体的で積極的に行動でき成長を実感できるようにしています。
3. お互いに教えあう協同学習やグループ学習を取り入れた授業によって、専門の学力を活かせる協調性や人間性を養い、「意欲」と「人間性」と「能

力」の3要件がバランスよく向上し、実践力・整備技術を身に付けた自動車技術者の養成を目指しています。

■電子ロボット工学科

高等学校段階までの基礎学力から段階的に専門分野への知識の修得ならびに実践的な教育を学べるように以下の教育を行います。

1. 初年次及び共通教育では、協同学習を多く取り入れた科目を通して学びに対する意欲喚起を図るとともに、主体的な基礎素養の修得を通して自ら考える力の基盤を身につけます。
2. 「共通教育科目」では、基礎学力に応じたクラス編成の基に基礎学力を強化し「専門基礎科目」との連携が図れる科目体系とし、無理なく共通教育から専門基礎への修得ができるようにします。
3. 専門基礎科目群では、IT工学(Information Technology)や電気電子工学、機械工学の原理や技術に関する専門基礎知識を修得し、複合技術の意味を理解します。基礎科目と専門科目との関わりを持たせ、実践的な専門能力は、課題解決型学習を取り入れたロボット基礎・同実験、電気基礎・同実験とプロジェクト実習を通して、総合的に学習意欲の向上を図りながら習得します。
4. 専門科目群では、電子制御やロボットに関する専門技術を修得し、設計力と応用技術力を身につけます。あわせて、座学と連携した実践的なプロジェクト実習によって、実践力を兼ね備えた創造力を養いながら、論理的に問題解決を図り、モノを具現化できる製作力を身に付けていきます。IoT・AIエンジニアリングコースの科目群では、IoTに関連する実践的な専門内容を修得し、3学科共同型実習でIoT課題に取り組み、課題解決に向けた総合力を身に付けます。

■情報メディア学科

IoTをも視野に入れた実践力・設計力および製作力を身に付けた情報技術者の養成を目指し、以下の教育を行います。

1. 共通教育科目、意欲喚起型科目を通して「意欲」「人間性」「能力」をバランスよく向上させ、専門科目の修得に必要な基礎を身につけます。
2. 専門基礎科目群を通してコンピュータシステム、情報処理、プログラミング、メディアデザインなどの基礎を学ぶとともに、演習科目、実験科目、プロジェクト演習型科目を通して座学と連携させ、主体的な意欲を引き出し、仲間と協力して課題に取り組む協調性を身につけます。
3. 専門科目群では、コンピュータの動作原理やプログラミング、ソフトウェア、ネットワークといった情報工学の分野について、応用まで深く学びます。さらに学生の志向に応じて、コンピュータを利用した各種デジタルコンテンツの制作手法についても学ぶことができるようにしています。
4. IoT・AIエンジニアリングコースでは上記に加え学科横断のIoTコースカリキュラムおよび学科の指定した関連科目を学びます。
5. インターンシップを通して社会・産業とのつながりを学び、自立に必要な意欲・人間性を養成します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ－大学案内－教育方針－入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

<https://www.aut.ac.jp/outline/policy/>

(概要)

愛知工科大学は、様々な人と向き合って議論・交流・相互理解を行い、お互いに教えあいながら学ぶ協同学習を通して、教育目標「自立と夢の実現」の達成に必要な力（「意欲」「人間性」「能力」）を身に付け、自身を成長させたいという意欲と基礎学力（数学的探求力、読解力、科学的思考力）を有する人を幅広く受け入れます。

数学的探求力：問題の特徴を見つけ出し、関連する数学的な知識と論理能力を使い、問題を解決できる力で、高校での数学科目群の履修・修得を求めます。

読解力：日本語あるいは英語のテキストを理解し、利用して、熟考できる力で、高校での国語及び英語の履修・修得を求めます。

科学的思考力：科学的知識を利用し、課題を明確にし、証拠に基づく結論を導き出せる力で、高校での化学あるいは物理の履修・修得を求めます。

■機械システム工学科

1. 自動車など便利な機械の設計開発や製造分野についての学習意欲と基礎学力のある人を求めます。
2. 機械の仕組みやメカニズムを観察したり作動原理を考えたりすることに興味があり、機械技術者に成長したいという意欲のある人を求めます。
3. 将来、モノづくり分野で協同して作業するために必要な能力をバランスよく向上させたいという意欲のある人を求めます。

■機械システム工学科 一級自動車整備士養成課程

二級ガソリン自動車整備士、二級ジーゼル自動車整備士の両資格を取得している人で、下記要件を満たす人を求めます。

1. 自動車など便利な機械の整備や開発分野についての学習意欲と基礎学力のある人。
2. 自動車の仕組みやメカニズムを観察したり作動原理を考えたりすることに興味があり、高度な整備技術者や開発技術者に成長したいという意欲のある人。
3. 将来、モノづくり分野で協同して作業するために必要な能力をバランスよく向上させたいという意欲のある人。

■電子ロボット工学科

1. 自立と夢の実現を目指す本学の教育方針に向けて、自らの得意とする専門分野での能力を伸ばしたいという意欲を持ち、そのための基礎学力のある人を求めます。
2. 将来、広く国内外で活躍しようとする熱意と意欲を持ち、またそれを支える優れた人間性を兼ね備えた人を求めます。
3. 電子制御分野やロボット工学分野について学び、モノづくりを通して社会に貢献したいと意欲をもっている人を求めます。

■情報メディア学科

1. プログラミング、ネットワーク、情報システム開発など情報通信工学の分野、あるいはコンピュータを用いたデジタルコンテンツ制作技術の分野について学び自分を成長させたいという夢を持つ人を求めます。
2. 本学のAUT教育法に基づき自らを成長させたいという意欲を持つ人、そのための基礎学力のある人を幅広く求めます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページ－大学概要－情報公開－教育情報の公表－2023年 教育情報の公表

(<https://www.aut.ac.jp/outline/disclosure/>)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
工学部	—	18人	11人	2人	10人	0人	41人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		33人					33人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：大学ホームページ—大学案内—教員紹介 (https://www.aut.ac.jp/outline/teacher/)					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>FD活動として、教育及び修学についての情報共有のための全教員を対象とした講演会や授業改善に向けたセミナー並びに授業改善の一環として学内授業参観を行い、教員は参観した科目担当者へコメントするとともに、自分の授業への改善に向けた方針を記し取り組み、振り返るようにしている。</p> <p>年間を通して授業評価結果の高い教員を表彰対象（ベストレクチャー）とし、受賞者には授業方法をFD研修として講演をしていただき、教員個々の授業改善の参考にしている。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	225人	131人	58.2%	950人	758人	79.8%	25人	20人
合計	225人	131人	58.2%	950人	758人	79.8%	25人	20人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	186人 (100%)	5人 (2.7%)	171人 (91.9%)	10人 (5.4%)
合計	186人 (100%)	5人 (2.7%)	171人 (91.9%)	10人 (5.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
アイシン機工、イノアックコーポレーション、コニカミノルタメカトロニクス、CKD、ダイハツディーゼル、中部理化、デンソーテン、森永乳業、さくら情報システム、日産自動車、日本情報産業、富士ソフト、きんでん、トーエネック、中部プラントサービス、総合警備保障、システムサーバーほか				

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
工学部	235人 (100%)	149人 (63.4%)	39人 (16.6%)	47人 (20.0%)	0人 (0.0%)
合計	235人 (100%)	149人 (63.4%)	39人 (16.6%)	47人 (20.0%)	0人 (0.0%)

(備考)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

各学科は、学部のカリキュラム・ポリシーをうけて、学科の学びと育てる人材像に向けたカリキュラム・ポリシーを設定し、学生の成長モデルに基づき、各学年に対して教育課程編成方針をまとめ、講義概要に示している。

教育課程編成の検討と具体化にあたり、基本方針を教育改革推進会議での審議において確認し、進めている。教育課程編成においては、共通教育課程は総合教育センターが、専門教育課程は各学科がそれぞれ担っている。具体的な教育課程編成については、教務委員会で審議・確認し、実行に移している。

シラバスについては、次の手順で、作成及びチェックを行っている。

- ①学務課より科目担当教員に作成を依頼する。
- ②科目担当教員は、シラバスとチェックシートを印刷し、他の教員にチェックを依頼する。
- ③シラバスのチェック者は、チェック結果をチェックシートに記載し、シラバスとチェックシートを科目担当教員に返却する。
- ④修正事項があった場合、科目担当教員は修正し上記②を行う。修正事項がなければ、すべての修正履歴を綴じてシラバスとチェックシートを学科の教務委員に提出する。
- ⑤学科の教務委員は、学科全体のシラバスをチェックし、不備があれば修正を指示する。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

単位認定、進級判定、卒業認定、修了認定は規定されている各基準条件に基づき運用されている。具体的には、以下のとおりである。

単位認定は、各科目教員がシラバスで示した成績判定基準に基づき「意欲」「人間性」「能力」を評価し、「能力」に配分した割合の6割以上を満たし、総合で60点以上の者を単位認定している。各科目の担当教員は科目成績書提出にあたり、受講生それぞれの3要件の評価点を記載したものを学務課に提出している。

進級判定は、単位修得状況をまとめ、進級に必要な単位条件をもとに条件を満たしているかの一覧表を学務課が作成し、教授会で進級判定を行っている。判定会議におい

て、担任は進級条件を満たさない学生の状況を必要に応じて説明している。

講義概要において、各科目の学修及び毎回の学びでの到達目標、学習方法、成績評価方法などを明示しており、科目学修で到達目標を意識して学修修得することを目指す。具体的には、各科目担当者は科目ごとに3要件貢献度配分を設定し、各要件の評価項目と比率（例えば、3要件貢献度配分：意欲40%、人間性30%、能力30%。各要件の評価項目比率：意欲<ワークシート取り組み10%、授業での問題への取り組み姿勢30%>、人間性<協同学習の関わり30%>、能力<小テスト10%、定期試験20%>）を講義概要に示している。

成績評価は、3要件の修得度をそれぞれ評価し、能力配分の60%以上を満たし、総合的評価にて60点以上の場合に単位を与える。これは、単に定期試験のみで60点を取得しても単位は得られない事を示している。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	機械システム工学科	124 単位	有・無	44 単位/年間
	電子ロボット工学科			
	情報メディア学科			
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：大学ホームページーキャンパスライフー学生便覧・講義要項ーGPAについて (https://www.aut.ac.jp/campuslife/handbook/)		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：大学ホームページー大学案内ー情報公開ー成績の分布状況 (https://www.aut.ac.jp/outline/disclosure/)		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページー大学概要ー情報公開ー教育情報の公表ー2023年教育情報の公表
(<https://www.aut.ac.jp/outline/disclosure/>)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名		授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
工学部	機械システム工学科 電子ロボット工学科 情報メディア学科	1年次	840,000円	300,000円	350,000円	その他に含まれるものは、 教育充実費と施設費
		2年次	850,000円	—	350,000円	その他に含まれるものは、 教育充実費と施設費
		3年次	860,000円	—	400,000円	その他に含まれるものは、 教育充実費と施設費
		4年次	870,000円	—	400,000円	その他に含まれるものは、 教育充実費と施設費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>■総合教育センター 数学や物理、化学、英語といった基礎科目に不安を抱える学生や、また、もっと深く学習して理解を深めたい学生の支援を行っている。 学力レベルや目標に応じて基礎科目を納得行くまで学べるよう、センター教員がマンツーマンで個別指導し、理解や習熟度を高める。 ほかに授業と並行して少人数で行われる基礎学力増進プログラム(リメディアル教育)やWebによる教材やコンテンツの配信など、多彩なプログラムを通して学習支援を行っている。</p> <p>○クラス担任制 新入学生が本学での学習環境に適応してスムーズな修学ができるように、1年生ではクラス担任制を設けている。全ての学科において、クラス担任が履修科目や出欠席または単位取得状況を把握して、学生それぞれの状況や個性に合わせて相談にのっている。 クラス担任の主な役割として、年度当初および後期開始にあたってのオリエンテーション(履修説明や助言)、出席状況が思わしくない学生への指導や家族への連絡と対応、成績や単位取得がおもわしくない学生に対する助言、休学・退学・復学・留学への対応と助言、学生生活上の諸問題に関する助言、学びの状況や将来に関する助言などを行っている。</p> <p>○オフィスアワー 全教員が学生との相談に応じる時間帯(オフィスアワー)を設けている。教員の指定する時間帯であればいつでも、勉学に関する質問や進路、大学生活など様々な相談に個別で応じている。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>キャリアセンター 専任職員が常駐して学生の就職相談や職業紹介、インターンシップの支援、履歴書やエントリーシートの添削、面接指導などの就職サポートを行っている。さらに、各種資格試験や検定試験にチャレンジするためのさまざまな講座も開講。資格取得は就職に有利だけでなく、将来の可能性を広げるための大きな武器となる。スキルアップや修学意欲の高揚のためにも、様々な資格・検定試験にチャレンジすることを奨励している。</p>

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

○保健室

簡単なケガや病気の応急処置を受けたり、備え付けのベッドで安静・休養をとることができる。必要に応じ、医師の診療を受けたり、帰宅させたりすることがある。

○学生相談室

学業や学習意欲、進路などの修学上のこと、経済的問題や家庭問題、対人問題や学生生活における問題などについて、相談を受けてサポートしている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ホームページ－大学概要－情報公開－教育情報の公表－2023 年教育情報の公表

(<https://www.aut.ac.jp/outline/disclosure/>)

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F123310106498
学校名	愛知工科大学
設置者名	学校法人電波学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		61人	57人	62人
内 訳	第Ⅰ区分	34人	34人	
	第Ⅱ区分	17人	17人	
	第Ⅲ区分	10人	7人	
家計急変による支援対象者（年間）				1人
合計（年間）				63人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	—		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
G P A等が下位4分の1	—		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。